東京都条例準拠：在館人数算定＆分散帰宅計画ガイド

総合防災プログラム チルそな！
SAT ONE BOSAI 発行

1. 都条例が求める「一斉帰宅抑制」と2027年3月の最新見直し方針

東京都帰宅困難者対策条例第7条では、従業員の一斉帰宅を抑制し「3日分の飲料水・食料・その他物資」を備蓄することが事業者の努力義務となっています。さらに都は2027年3月を目途に実効性対策を取りまとめ、「分散帰宅」の徹底を求めています。

条例・指針項目	従来のオフィスの落とし穴	都条例準拠の実効性対策
算定対象人数	正社員数のみで計算し、常駐する派遣・パート社員、発災時の来客分が完全に抜け落ちている。	**【最大在館人数（正社員＋派遣＋パート＋平均来客）】**で計算。シフト制でもピーク時人数を基準とする。
備蓄数量基準（3日＋α）	ジャスト3日分で設計しているため、交通麻痺が4日目以降に及んだ際に物資が枯渇する。	**【全対象人数 × 1.1〜1.2（10〜20%上乗せ）】**。交通再開後も数割の待機者が残る前提で確保。
分散帰宅シナリオ（新ルール）	3日経過後に「帰宅指示」を一斉に出し、駅周辺のパニックや雑踏事故を誘発する。	**①徒歩帰宅可能者（10km圏内）➜ ②方面別・交通再開ルート順**に時系列で段階退社させるフローを策定。
救護・一時滞在	自社の安全確保のみで、近隣の要援護者や周辺通行者への配慮計画がない。	可能な範囲での「一時滞在施設協力」の検討、および外部向け開放スペースの区画設定。

2. 【早見表】在館人数別・都条例クリア備蓄シミュレーション

オフィス規模（最大在館）	飲料水（10L/人）	主食・副食（10食/人）	非常用トイレ（15回/人）	分散帰宅＋10%推奨備蓄
小規模（15名）	150 L（2L×75本）	150 食	225 回分	**水165L / 食165食 / 便250回**
中規模（30名）	300 L（2L×150本）	300 食	450 回分	**水330L / 食330食 / 便500回**
中大規模（50名）	500 L（2L×250本）	500 食	750 回分	**水550L / 食550食 / 便850回**
大規模（100名）	1,000 L（2L×500本）	1,000 食	1,500 回分	**水1,100L / 食1,100食 / 便1,700回**

💡 **東京都の動向：**都は帰宅困難者支援システムとの企業連携を進めています。「3日間ただ社内に閉じこもる」のではなく、通信手段と分散退社ルールを整えることが監査適合の条件です。

自社BCPの死角判定 ＆ チルそな！解決ソリューション

3. 都条例・帰宅困難対策の「死角」セルフチェック

チェック項目	現状	死角判定
備蓄人数に正社員だけでなく、派遣・アルバイト・来客想定（+10〜20%）が含まれているか	☐ 適合 ☐ 未定	数量の死角
待機解除後、社員を方面別・交通再開順に段階的に帰宅させる「分散帰宅マニュアル」があるか	☐ 適合 ☐ 未定	退社の死角
エレベーター停止時、重い水や食料を倉庫から各フロアへ運ぶ搬送ルートが決まっているか	☐ 適合 ☐ 未定	運用の死角
交通機関が全停止した際、自宅まで10km以上ある社員の社内滞在体制が整っているか	☐ 適合 ☐ 未定	滞在の死角

4. チルそな！が提供する4つの解決ソリューション

MENU 01 ｜ 最適解決

防災プチ診断

10,000円〜 （オンライン30分）

30分で自社の死角をプロが洗い出す健康診断。都条例への適合状況と分散帰宅計画の漏れを短時間で診断。

MENU 02

備蓄アップデート

要お見積り （選定・調達・運用）

最大在館人数+αに対応した品目選定と保管レイアウト設計。廃棄ロスゼロの循環型ストックを実現。

MENU 03

セッションP（限界72!!）

100,000円〜 （ワークショップ）

初動72時間の社内待機をカードゲームで疑似体験。街歩き訓練『チルパト』で周辺危険箇所を点検。

MENU 04

チルそな！ルーム

月額 10,000円〜 （税抜）

都条例やガイドラインの改定動向を定例共有。担当者の悩みを月次壁打ち・チャットで継続サポート。

▼ 都条例適合・在館人数算定の監査相談

☛ 「MENU 01 防災プチ診断（1万円〜）」はWebサイトより随時受付中

合同会社サットワン（SAT ONE BOSAI） ｜ メール：office@tokyobosai.com ｜ ポータル：https://sat-one-bosai.web.app/

※本資料は、東京防災情報誌編集部及び合同会社サットワン乾栄一郎に帰属します。転載・引用・二次利用の際は出典の明記をお願いいたします。